

己亥の歳

曹

松

沢国たくこくの江山こうざん戦国せんに入いる

生民せいみん何なんの計けいあつてか 樵蘇しょうそを樂たのしむ

君きみに憑よ心こころつて話はなす 莫なれ封侯ほうこうの事こと

一将功成いつしやうこうなつて万骨枯ばんこつかる

【作者】曹松(八四八?~九〇一?)・中国晩唐の詩人。字は夢徴。豫州の人。若くして戦乱から逃れ、洪州の西山で隠遁生活を送った。推敲の故事で有名な賈島(かとう)について詩を学び、最晩年の七十歳を過ぎて科挙の進士試験に合格した晩年進士の試験に及第し、秘書省正字の官を授けられたという。その後間もなく世を去ったと伝えられる。

【語釈】*己亥歳(つちのといのとし)……唐の僖宗(きそ)の乾符(けんぷ)6年(八七九)にあたる。

*澤 國…川や湖沼の多い低湿の地方。ここでは揚子江 淮河(わいが)の流域 揚子江中・下流域の 説もあり) *戦 圖 作戰範圍 戦争が行われている地域。

*生 人…人民。 *何 計…どんな方法があろうか。 *樵 蘇…樵はきこり、蘇は草刈。 民衆の日常生活をさす。

*封 侯…諸侯に封じられること。手柄で諸侯に封じられた後漢の班超の故事をふまえている。 *萬 骨…数多くの人々の生命

【通釈】水郷地帯の山も川も、戦場に組み入れられてしまった。こんな中では、人々は、どうして木や草を刈るようなささやかな生活でさえ営むことができようか。君よ、諸侯に封ぜられることなど、どうか、言わないでほしい。ひとりの将軍が手柄をたてるとき、そのかけには無数の人々の生命が奪われているのだから。

【備考】「一将功成り万骨枯る」有名な句で、詩の主眼になっている。

黄巢の乱を詠んだ「己亥歳(きがいのとし)」は、その結句「一将功成りて万骨枯る(いつしやうこうなりてばんこつかる)」(一人の将軍が功名を成した陰には万人の兵士たちの犠牲があるという意味)で広く知られ、戦争の空しさ、愚かさを示す警句として使われている。